



十勝川治水100年
トークリレー ⑥

遡上回復へ清掃や掘削を

当団体は十勝総合振興局、釧路総合振興局区域の川に遡上(そじょう)した秋サケの捕獲を行い、採卵・人工受精を行っています。ふ化したサケの稚魚を最適なサイズまで飼育し、河川に放流します。放流したサケの稚魚は北上、南下を繰り返し、3〜5年かけて放流した母川に帰ってくるよう資源造成に取り組んでいる団体です。

近況としては、十勝川でのサケの捕獲は2017年から遡上不振が続き、平均10万尾程度の捕獲となっていました。22年には実に6年ぶりに25万尾を超える遡上があったことから、これを機に少しずつ資源が回復傾向になつてく

十勝釧路管内さけ・ます 増殖事業協会専務理事 新出幸哉氏



れればよいと思います。
16年8月下旬の台風10号による河川の大増水は、秋サケが遡上し始めたときに起こりました。猿別川では捕獲施設が屋根を残しほぼ水没し、設備が全損に至りました。十勝川の千代田堰堤(えんてい)でも同じく陸に水が上がり、支川でも同じく増水していた

ため、十勝川本川の水位が下がるまで相当時間がかかった記憶があります。
この増水により、施設の上流からの流木やありとあらゆるごみが流れてきて、これらの撤去に苦慮しました。

また増水による土砂堆積や河川の河床低下により、至る所に島ができて川の流れが阻

害されており、サケの遡上に影響を及ぼしています。その他、増水で分かったことはいえ、家庭ごみが頻繁に流れ

てきていることから、川にかたりのごみが捨てられているのではないかと思つてい

ます。十勝川を良くするためには、定期的な清掃活動、河川の流れを阻害しそうな場所では河道掘削作業の必要があると思ひます。

将来、産業や観光を発展させるためには、川においてもやはりそれなりの対策が必要と考えます。

◇ (随時掲載)

十勝川治水100年記念事業

トークリレー



十勝釧路管内さけ・ます 増殖事業協会専務理事 新出 幸哉 氏



十勝毎日新聞 令和5年3月21日 3面 掲載